

総合的な探究の時間の第1の目標

探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

学校の教育目標

本校伝統の文武不岐の教育方針の下、豊かな人間性を培い、深い知性と逞しい心身を養うとともに、自主自立を涵養し、グローバル人材〔地球規模で考え、地域に貢献できる人材〕を育成する。

各学校で定める目標と育成する資質・能力

探究の見方・考え方を働かせ、国際的な視点による地域や社会の課題に関わる総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、主体的な進路選択のための課題の発見と解決ができるようにするために、以下の資質・能力を育成する。

総合的な探究の時間の学習評価

●信頼される評価であるために
・学習活動前の生徒の実態把握、学習活動中および学習活動終末の生徒の学習状況の把握と改善を年間計画の中に位置付ける。

生徒の実態

- ・興味関心のあることには積極的だが、それが主体的な学びに結びつかない。
・素直だが、受け身の進路選択になりがちである。
・広い視野を持ち、見通しを立てて物事を考えることが苦手である。

生徒の発達をどのように支援するか
○配慮を必要とする生徒への指導

- ・個に応じた教育課程を策定する。
・情報の共有を図る。ケース会議を定期的に開催する。
・家庭・医療機関との連携を密にする。

目指す生徒の姿

- ・「生きる力」にあふれ、生涯にわたって学び続けるための基礎基本が身に付いている。
・多様な考え方を受け入れ、他者と協働することができる。
・主体的な進路選択ができる。
・規律を遵守する精神と望ましい生活習慣が確立している。
・グローバル人材の素地となるスキルと感性を備えている。

各学校が定める内容（目標を実現するにふさわしい探究課題、探究課題を通して育成を目指す具体的な資質・能力）

学習活動、指導方法等

1学年
●自己の興味・関心や適性を知るための手立てや取組
(1) 探究の過程において、自己の興味・関心や適性の発見に必要な知識及び技能を身に付け、自己の興味・関心や適性を理解することが、高校生活や進路の目標を設定する上で大切であることに気付く。

1学年・2学年 連続した2カ年を一つのまとまりとして探究活動を行う
生徒が自分で設定した研究主題についてアカデミックにアプローチしていく過程を体験する。1学年ではプロセスの1・2に取り組み、2学年におけるプロセスの3・4・5・6へと発展させていくものである。

指導体制（環境整備、家庭・地域との連携）

- ・総合的な探究の時間運営委員会…新学習指導要領を踏まえ、適宜内容や評価等の改善に取り組む。教務、各学年担当の計8名で構成。学校全体の方針を協議したり、各方面とのコーディネートを行ったりする。
・授業担当者会議…授業担当者と運営委員会の担当者として指導方法や評価観点、進捗状況について適宜情報を共有する。
・総合的な探究の時間研修会…新規採用者、転入者対象の研修を実施し、本校の総学の目標や育てようとする資質・能力について共通理解を図る。
・境町役場や地域の小中学校などとの連携…地域のイベント、ボランティア、小中学校の学習支援などへの生徒派遣をコーディネートし、実践的な探究活動の機会を設ける。